

平成26年度業務実績 小項目評価検討資料

資料1

※委員評価欄のーは、法人の自己評価と同じ、の意

※確認事項がある項目は、小項目番号を○で囲っている

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
1	A	A	(同右)	内視鏡検査・治療は一般的になってきており、足柄上病院の特徴とは言えないが、在宅療養後方支援病床の設置など、療養環境の整備に取り組んでいる。 また、在院日数が短くなる中、退院後のケアの重要性が高まっており、入退院センターの設置は評価できる。	— —	内視鏡検査・治療は一般的になってきており、足柄上病院の特徴とは言えないが、在宅療養後方支援病床の設置など、療養環境の整備に取り組んでいる。 在院日数が短くなる中、退院後のケアの重要性が高まっており、入退院支援センターの設置は評価できる。
2	B	A	<p>前回議論を反映</p> <p>目標として設定している「摂食機能療法件数」の達成率が80%にとどまったことから、自己評価はBとしているが、これは救急患者等肺炎リスクのある患者に対して重点的なケアを行ったことに拠るものであり、医療サービスの質という別の観点から見れば、評価に値するものである。 また、参考値として掲げている「バーセルインデックスによる生活機能評価の実施」等については、昨年度と同様十分な実績が認められ、25年度の実績及び評価(S)との対比で考えると、B評価とするには及ばず、A評価が妥当である。 なお、評価委員会による適切かつ円滑な評価という観点から、自己評価結果を整理する際は、昨年度からの変動要因等を的確に記載して頂くことが望ましい。</p>	<p>(要検討)</p> <p>(第2回委員会における主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■目標値として掲げている摂食機能療法件数が、目標の80%の実績となったことから自己評価はBとなっているが、量的な評価だけでなく質的な評価を加味すれば、Aでよい。 ■参考値として掲げている「バーセルインデックスによる生活機能評価の実施」等については、昨年度と同様十分な実績が認められる。25年度の実績及び評価(S)との対比で考えると、26年度の評価はAでよい。 ■自己評価結果を整理する際、昨年度からの変動要因等を的確に記載していただけると、評価委員として適切な評価をしやすくなる。 	— A — — —	<p>摂食機能療法件数の実績のみで評価しているのはやや疑問がある。患者目線で現場対応の質を重視して取り組んだ結果、件数が減少したのであれば、質の向上も評価の要素として取り入れた方がよいのではないか。</p> <p>重点的ケアの実施に伴う若干の件数低下であり、Bにするに及ばない。</p> <p>摂食機能療法件数が目標に未達であり、B評価はやむを得ない。</p> <p>若干件数は減少したが、優先度の高い患者への重点化は妥当。重要な活動であり、引き続き努力してもらいたい。</p> <p>足柄上病院は地域性から生じる人員確保の困難性といった課題を抱えているが、地域の中核的医療機関としての役割をいかに発揮するかを、県立病院機構全体で考える必要がある。</p>
3	A	A	(同右)	積極的に再教育研修等を受け入れており、実績を上げている。	— —	再教育研修を受け入れるなど、実績を上げている。 積極的な受入れに努めており、A評価が妥当である。
4	B	B	(同右)	現在の状況下では精一杯の実績と言えるが、産婦人科医の確保が課題と認識されてからかなりの期間が経過していることから、県立病院機構全体の課題として原因究明を行い、引き続き産婦人科医の確保に努める必要がある。	— — — —	引き続き産婦人科医の確保に努めていただきたい。 何故、産婦人科医を採用することができないのか、その原因究明が重要である。 医師の確保が課題である。B評価はやむを得ないが、現在の状況下では精一杯の実績であると言える。 産婦人科医師の確保の問題は、課題とされながらも解決が困難なために、既にかかなりの期間が経過している。県立病院機構全体として捉え対応していくことが必要である。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
5	S	S	(同右)	全国屈指の専門医療を提供する施設として、小児がんの拠点病院としての役割を十分に果たしている。	-	小児がんの拠点病院としての役割を十分に果たしている。
					-	協議会の設置、実績等からして、拠点病院としての役割を十分に果たしている。
					-	素晴らしい実績である。
					-	全国屈指の専門医療を提供する施設である。
6	A	A	(同右)	小児が減少している中で、実績件数だけでなく手術の質も大切である。全体の手術件数は目標に未達だが、難易度の高い手術件数は増えており、専門病院としての役割を果たすべく努力している。	-	全体の手術件数は目標に未達だが、難易度の高い手術件数は増えており、A評価が妥当である。
					-	小児が減少している中で、実績件数だけでなく手術の質(内容・難易度)も大切である。専門病院としての役割を果たすべく努力されている。
7	A	A	(同右)	チーム医療、ファシリテッドッグ等、緩和ケア体制の充実を図っている。	-	チーム医療、ファシリテッドッグ等、緩和ケア体制の充実を図っている。
8	S	S	(同右)	常に満床状態にあるNICUにおいて、運営を工夫することにより他の医療機関では受入困難な患者を積極的に受け入れ、目標を大きく上回る受入実患者数を達成しており、周産期救急基幹病院としての役割を十分に果たしている。	-	常に満床に近いNICUにおいて目標を大きく上回る受入実患者数を達成できたことは適切な病床管理と工夫の結果であり高く評価できる。
					-	常に満床状態にも関わらず、運営を工夫することにより、他の医療機関で受入困難な患者を積極的に受け入れており、周産期救急基幹病院としての役割を果たしている。
					-	NICUは満床が常態化する中でも、上手に運営している。目標値も十分に達成しており、Sが妥当である。
					-	積極的に受け入れており、素晴らしい実績である。
					-	周産期の医療機関としての役割を十分に果たしている。
9	S	S	中期目標期間中に目標値を上げていく余地はあったが、掲げている目標値については十分に達成している。	中期期間中に目標値を上げていく余地もあったと思うが、掲げている目標値については十分に達成している。	-	16床の確保、措置入院患者について目標値を大幅に上回る実績等、十分な成果を上げている。
					-	役割を十二分に果たしている。
					-	中期期間中に目標値を上げていく余地もあったと思うが、掲げている目標値については十分に達成している。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
10	S	S	(同右)	専門性を発揮し、素晴らしい実績を上げている。 平成26年度は2病院の統合を加味して目標値は低めに設定したようだが、目標値を大幅に上回る実績を上げており、多くのニーズに応えている。 近い将来、保険が適用されるようになれば、更なる実績が期待できる。	-	r TMS等、先進医療に取り組んでいる。 - 専門性を発揮し、素晴らしい実績を上げている。近い将来、保険が適用されるようになれば、更なる活躍が期待できる。 - 平成26年度は2病院の統合を加味して目標値は低めに設定したようだが、目標値を大幅に上回る実績を上げており、多くのニーズに応えている。
⑪	C	B	<p>前回議論を反映</p> <p>目標達成率のみで判断すればC評価となるが、延べ患者数が伸びなかった背景には、通院処遇が終了して一般精神科医療に移行した患者が多かったことがあり、このことは治療の進展という観点からは望ましい結果である。平成25年度実績までの評価を加味しても、C評価とするには及ばず、B評価が妥当である。 なお、管理不能な目標値を設定していることについて再考を要する。</p>	<p>(要検討)</p> <p>(第2回委員会における主な意見等)</p> <p>■法律上100%受け入れる義務があり、実際に100%受け入れているのであれば、評価はA。今後は受入拒否数といった指標を置くのが適当。 ■医療観察法による要請に対して受入れを拒否するのは困難。N/A(評価することは不適当)とするのが適当。 ■可(O)か不可(X)かということだと思うが、あえて評価するのであればB。単純に目標達成率から判断すればCかもしれないが、延べ患者数が減少した理由に着目すればB評価が適当。</p>	A	-
					B	ニーズには対応しているようなのでCにするには及ばない。
					-	C評価はやむを得ないが、法的措置なので仕方ない部分がある。今後も専門的役割として努力していただきたい。
					-	目標未達であり、C評価はやむを得ない。
12	B	B	<p>前回議論を反映</p> <p>2病院の統合が新患者数に影響を与えていることは想像に難くないが、実績から判断するとB評価が妥当である。 今後、積極的な広報を実施していけば、患者数は自然と増加していくことが期待できる。</p>	<p>(要検討)</p> <p>(第2回委員会における主な意見等)</p> <p>■統合に伴う流れの中で、当該実績値は妥当である。ただし、Aにするには及ばない。</p>	?	統合・再編・建て替え等の明らかな外的要因による実績低下についての評価の考え方を確認する必要がある。
					-	新患者数の減少については、統合の過程でやむを得ない面があるが、評価としてはBでよい。
					-	改築等の制約があったかと思う。B評価はやむを得ないが、社会に対して積極的な広報をしていけば、社会的背景を考えると、患者数は必然的に増加すると見込まれる。
					-	B評価はやむを得ないが、目標の立て方に若干の工夫の余地があったのではないかと。
⑬-1	B	B	<p>前回議論を反映</p> <p>安全な手術を実施していくには麻酔科医の確保は不可欠であり、病院機能の発揮に向けて、対策に取り組むべきである。 また、昨今がん細胞による免疫のブレーキに関するメカニズムが解明されてきており、免疫療法が手術、化学療法、放射線に次ぐ第4の治療方法として認知されてきているため、がんセンターとしても遺伝子解析を進めながら免疫療法を積極的に取り入れていく必要がある。</p>	<p>麻酔科医が不足する中で無理に手術をする方が危険であり、病院機能の発揮に向けて、麻酔科医の確保に向けた対策に取り組むべきである。 また、昨今がん細胞による免疫のブレーキに関するメカニズムが解明されてきており、免疫療法が手術、化学療法、放射線に次ぐ第4の治療方法として認知されてきているため、がんセンターとしても遺伝子解析を進めながら免疫療法を積極的に取り入れていく必要があるのではないかと。</p>	-	麻酔科医の確保に努めるとともに、昨今がん細胞による免疫のブレーキに関するメカニズムが解明されてきており、免疫療法が手術、化学療法、放射線に次ぐ第4の治療方法として認知されてきているため、がんセンターとしても遺伝子解析を進めながら免疫療法を積極的に取り入れていく必要があるのではないかと。
					-	前年実績からは404件増となっているが、B評価はやむを得ない。麻酔科医が不足する中で無理に手術をする方が危険である。医師の確保に向けた対策を行うべきである。
					-	麻酔科医の確保が極めて困難であることは理解しているが、病院機能の発揮においては克服しなければならない課題である。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
13-2	A	A	外来化学療法の件数は着実に増加しており、今後も増加が期待できる。	件数が増加しており、また今後も増加が期待できる。	-	件数が増加しており、また今後も増加が期待できる。
13-3	A	A	非常に重要な分野であり、引き続き運用体制の充実を図ることが望まれる。	非常に大事な分野である。	-	非常に大事な分野である。
13-4	A	A	(記載しない)	(要検討) (第2回委員会における主な意見等) ■補足説明により、開設にあたり考えていた事業計画がほぼ達成されたことや、漢方治療による軽快事例が見られたことから、自己評価をAとしたことが理解できた。	-	自己評価の判断理由について補足説明が欲しい。
					?	平成26年度からの取組みであり、何と比較して評価すればよいのか不明である。
14	A	A	(同右)	放射線治療環境について、着実な整備が進んでいる。	-	放射線治療環境について、着実な整備が進んでいる。
15	A	A	(記載しない)	(要検討) (第2回委員会における主な意見) ■補足説明により、十分に役割を果たし、実績が上がっているため、自己評価をAとしたことが理解できた。	-	自己評価の判断理由について補足説明が欲しい。
16	S	S	(同右)	がん専門医の育成に努めており、その努力の結果が表れている。	-	がん専門医の育成に努めており、S評価が妥当である。
					-	努力の結果が表れている。
17	A	A	<div style="background-color: #e0f0ff; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">前回議論を反映</div> カテーテルアブレーションやPCIについては一般的な治療法となっており、また複数掲げている目標値のうちカテーテルアブレーションについては目標達成率が63.7%にとどまったが、実績を全体的に判断すればA評価が妥当である。	(要検討) (第2回委員会における主な意見等) ■カテーテルアブレーション症例数は目標達成率63.7%にとどまったが、その他の目標値については大半で目標値を達成しており、十分な実績を上げていることから、自己評価をAとしたことには合理性が認められる。	B	カテーテルアブレーションの目標達成率が63.7%に止まりながら、自己評価をAとしている理由を確認したい(病院として最も重きを置いている目標値は何か)。
					-	カテーテルアブレーションやPCIについては一般的な治療法となっており、特筆できるものではないが、全体として見ればA評価が妥当である。
18	B	B	<div style="background-color: #e0f0ff; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">前回議論を反映</div> 高齢者の増加に伴い肺がんの罹患者数も増えている。循環器呼吸器病センターの役割として、引き続き多くの患者を受け入れるための努力を期待する。	(要検討) (第2回委員会における主な意見等) ■平成25年度は、素晴らしい実績を上げた間質性肺炎治療に関する実績を含めてA評価としたが、26年度は当該実績を別の小項目(19)としたため、評価がBになったことはやむを得ない。	?	25年度実績と比較して、外来化学療法の件数が若干低下したが他はおおむね同じであり、昨年の評価との整合を確認する必要がある。
					-	B評価でやむを得ない。
					-	高齢者の増加に伴い肺がんの罹患者数も増えている。センターの役割として今後も多くの患者を受け入れるべく努力して欲しい。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
19	S	S	(同右)	平成25年度にはDPC対象病院において全国1位となる等、間質性肺炎治療について中核的な役割を十分に果たしている。今後も益々重要性が増していくので、機能強化を果たしながら実績を積み重ねていくことを期待する。	-	間質性肺炎治療について、中核的な役割を十分に果たしている。
20	A	A	(同右)	結核医療について、公立病院としての役割を果たしている。	-	結核医療について公立病院としての役割を果たしている。
21	A	A	<p>前回議論を反映</p> <p>病院の役割が治療する機関から、早期に在宅へとシフトさせる機関へと変わりつつある現状に鑑みると、退院サマリーは可能な限り早期に作成することが望ましい。褥瘡については発生件数を最小限に抑えられるよう、引き続き防止策に努めることを期待する。</p>	<p>(要検討)</p> <p>(第2回委員会における主な意見等)</p> <p>■診療報酬上の診療録管理体制加算の基準において、2週間が目安となっている。</p> <p>■褥瘡の増加理由として、呼吸器の重症患者及び人工呼吸器を使用する患者が増えていることが考えられる。</p> <p>■実際には退院時に患者に持たせるなり主治医に直送する等して、退院時サマリーという形ではない運用をしているケースもあるのではないかと。</p>	B	固形がんは多種多様であり、クリティカルパス件数の多少は一概には判断できない。昨今、病院は治す機関ではなく、早期に在宅へシフトする機関になりつつあることに鑑みると、退院サマリーの2週間は遅すぎるのではないかと。医療の変化に対応できていないのではないかと。循環器呼吸器病センターにおける褥瘡が増えているのもBと考える要因である。
23	A	A	委託料の増等が重なることの無いよう、着実な総合整備の推進を期待する。	医療機関は診療報酬に左右される部分があるため、委託料の増等が重なると若干の不安は残るが、評価としてはAが妥当である。	-	医療機関は診療報酬に左右される部分があるため、委託料の増等が重なると若干の不安は残るが、評価としてはAが妥当である。
25	A	A	(同右)	各病院において、高い逆紹介率実績を残している。	-	各病院において高い逆紹介率実績を残している。
26	A	A	(同右)	勤務発明が特許につながれば、県からの負担金の減少にもつながる。引き続き、産官学連携の取組みを推進すべきである。	S	-
27	A	A	他の医療機関では実施が困難な治験に取り組んでおり、評価に値する。 <u>地域性による影響はあろうが、足柄上病院における治験件数の更なる増加を期待する。</u>	足柄上病院における治験件数は、地域性のせいかな若干少ない印象を受けるが、全体としては他の医療機関では実施が困難な治験に取り組んでおり、評価できる。	-	他の医療機関では実施が困難な治験に取り組んでおり、A評価が妥当である。
28	A	A	チームによる褥瘡対策や入院患者への食事の工夫等、数字には表れない部分についても、安全安心の視点で、質向上への努力が認められる。	チームによる褥瘡対策や入院患者への食事の工夫等、数字には表れない部分についても、安全安心の視点で、質向上への努力が見られる。	-	各病院においてチームを構成し、患者支援の充実を図っている。
					-	褥瘡対策や入院患者への食事の工夫等、数字には表れない部分についても、安全安心の視点で、質向上への努力が見られる。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
29	A	A	軽度(0~1レベル)の事例が多くなる一方で、重度(3以上)の事例が減少しており、望ましい傾向である。なお、研修参加者数については、 <u>延参加者数だけではなく、研修受講対象者の受講率についても併せて示す方が望ましい。</u>	軽度(0~1レベル)の事例が多くなる一方で、重度(3以上)の事例が減少しており、望ましい傾向である。なお、研修参加者数については、 <u>延参加者数だけではなく、研修受講対象者の受講率も示した方が、より実績を評価しやすくなる。</u>	-	軽度の事例が多くなる一方で、重度の事例が減少しており、望ましい状態である。
					-	区分0・1の軽度なレベルの事例が増え、2以上の重度なレベルが減少しており、望ましい傾向にある。安全への意識が高まり、日常的な報告や事例の共有などが組織内で標準化していると言える。なお、医療安全に関する研修の参加者数については、職種ごとに把握することも大切である。
					-	研修の延参加者数だけではなく、研修受講対象者の受講率も示した方が、実績を評価しやすいのではないかと。
30	A	A	(同右)	風疹、麻疹対策、院内感染防止会議の実施等、対策に取り組んでいる。	-	風疹、麻疹対策、院内感染防止会議の実施等、対策に取り組んでいる。
31	A	A	(同右)	がんセンター、精神医療センターにおける免震構造の採用、足柄上病院におけるDMAT体制強化など、十分に取り組んでいる。	-	がんセンター、精神医療センターにおける免震構造の採用、足柄上病院におけるDMAT体制強化など、十分に取り組んでいる。
32	A	A	遵守意識が大切である。新人採用、職員の交代等があるので、セキュリティポリシーを浸透させるべく周知を図り、常に遵守意識を高めていくことが重要である。なお、研修の対象者をどのように設定するのかにもよるが、循環器呼吸器病センターの参加者数が若干少ないのではないかと。	遵守意識が大切である。新人採用、職員の交代等があるので、セキュリティポリシーを浸透させるべく周知を図り、常に遵守意識を高めていくことが重要である。なお、研修の対象者をどのように設定するのかにもよるが、循環器呼吸器病センターの参加者数が若干少ないのではないかと。	-	遵守意識が大切である。新人採用、職員の交代等があるので、セキュリティポリシーを浸透させるべく周知を図り、常に遵守意識を高めていくことが重要である。
					-	研修の対象者をどのように設定するのかにもよるが、循環器呼吸器病センターの参加者数がやや少ない印象を受ける。
33	A	A	(同右)	全てにおいてクリティカルパスを導入できるわけではないので、作成件数だけではなく、クリティカルパスに適合しなかった症例の分析、それに対応するための評価・修正が適切に行われる体制整備が重要である。	-	全てにおいてクリティカルパスを導入できるわけではないので、作成件数だけではなく、クリティカルパスに適合しなかった症例の分析、それに対応するための評価・修正が適切に行われる体制整備が重要と思われる。
34	A	A	(同右)	新しい命のためのサポートセンターにおけるカウンセラーの配置、小児救急相談など、患者の視点に立った医療サービスに着実に取り組んでいる。	-	新しい命のためのサポートセンターにおけるカウンセラーの配置等、着実に取り組んでいる。
					-	遺伝カウンセリングや、小児救急相談など積極的に実施されており、患者の視点になった医療サービスに努力されている。
35	A	A	(同右)	他の病院から意見を求めて来る患者の積極的受入れについて努力が伺える。セカンドオピニオンには2つの側面があり、他病院の意見を聴きたいという院内患者の意向を快く受け入れ、支援する風土の醸成も重要である。	-	他の病院から意見を求めて来る患者の積極的受入れについても努力が伺える。セカンドオピニオンには2つの側面があり、他病院の意見を聴きたいという院内患者の意向を快く受け入れ、支援する風土の醸成も重要である。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
36	A	A	(同右)	平成22年度と比べて満足度が向上しており、努力の結果が伺える。 また、満足度調査は実施することも重要だが、結果をどう改善につなげたかも重要であり、多様な意見を取り入れ改善していこうとする姿勢が実績から見て取れる。 このことは、潜在的に医療訴訟の減少にも寄与していると推定される。	-	平成22年度と比べても向上しており、また調査を踏まえた取組みも実施しており、医療訴訟の減少にも寄与していると推定される。
37	A	A	公開講座や情報誌の発行等、患者の視点を取り入れた取組みに力を入れており、患者獲得や地域の医療水準の向上に寄与している。 なお、公開講座への参加者数(加えて、参加者の満足度)を把握できるとより望ましい。	公開講座や情報誌の発行等、患者の視点を取り入れた取組みに力を入れており、患者獲得や地域の医療水準の向上に寄与している。 なお、公開講座への参加者数(加えて、参加者の満足度)がわかると望ましい。	-	公開講座への参加者数(加えて、参加者の満足度)がわかるとなお良い。
38	A	A	(同右)	待ち時間についてはある程度は仕方ない部分があり、いつ呼ばれるかわからず、一定場所で待ち続けなければならないといった行動の制約をいかに減らすことができるかが待ち時間対策のポイントである。がんセンターで取り入れた患者呼び出しカード制度は良い取組みであり、他の病院においても待ち時間対策への工夫が伺える。	-	待ち時間は短縮しており、A評価が妥当である。
39	A	A	前回議論を反映 支払環境の充実、現在では必須の取組みであり、ニーズに対応できている。	支払環境の充実、現在では必須の取組みであり、効果を上げていると思われる。 (第2回委員会における主な意見等) ■足柄上病院以外の病院では、土日祝日の支払窓口が開設されていないが、ニーズは高くないため、患者の利便性は損なっていないことを理解できた。	-	支払環境の充実、現在では必須の取組みである。効果を上げていると思われる。
40	A	A	特にがんセンター、子ども医療センターでは大切な取組みであり、引き続き積極的に取り組むことを期待する。	特にがんセンター、子ども医療センターでは大切な取組みであり、引き続き積極的に取り組んで欲しい。	-	特にがんセンター、子ども医療センターでは大切な取組みであり、引き続き積極的に取り組んで欲しい。
41	A	A	前回議論を反映 平成22年度に厚生労働省が実施した実態調査によれば、神奈川県内における正規医師の充足率は90.4%(全国では86.0%)であり、病院機構における充足率93.1%はこれを上回る水準である。 一方、産婦人科医、麻酔科医は不足しており、引き続き医師確保に向けた努力が必要である。	(要検討) (第2回委員会における主な意見等) ■参考値として記載されている93.1%の医師充足率は、他との比較で見たときに決して低い数値ではないことがわかるようなコメントを、産婦人科医、麻酔科医の補充が不十分であることと併せて加筆して頂きたい。	B B -	平成27年3月31日時点で医師の充足率は93.1%で、A評価としているが、年度平均で95%を割る場合にはB評価が適当ではないか。 産婦人科医、麻酔科医の補充が不十分である。 医師確保への努力が伺える。麻酔科医、産科医は全国的に不足しており、あらゆる手を尽くして引き続き努力する必要がある。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
42	B	B	(同右)	<p>新卒看護師離職率が11.0%となり、評価はBが適当である。平成26年度の離職率が高かった原因や背景を丁寧に分析し、今後につなげることが重要である。</p> <p>(第2回委員会における主な意見等) ■ パートナーシップナーシングシステムについては、メリットを活かしながら新人看護師の定着につながるよう工夫してもらいたい。コメントはそのままが良い。</p>	-	離職率が11%と増加したことを明記する必要がある。
					-	新卒離職率が目標値を上回っており、B評価はやむを得ない。
					-	人材の採用確保への努力が伺える。今回離職率が高かった原因や背景を丁寧に分析し、今後に繋げることが重要である。
44	A	A	(同右)	<p>取得に向けた制度は充実しているが、年休平均取得日数の8.1日及びリフレッシュ休暇取得率47%は、数値だけでみると制度の運用に改善の余地があるのではない。 今後も出来る限り完全取得に向けた努力を続けることが大切である。</p> <p>(第2回委員会における主な意見等) ■ 十分な取得状況とは言えないが、平成26年度は芳香病院・せりがや病院の統合等の特殊要因があったこと、これまでの評価との継続性等の観点から、A評価でよい。</p>	-	年休平均取得日数の8.1日及びリフレッシュ休暇取得率47%は数値だけでみると制度の運用に改善の余地があるのではないか。
					B	8.1日の取得は少ないのではないか。リフレッシュ休暇の取得率も低いのではないか。
					-	取得に向けた制度は充実しているが、取得日数が下がったことは気になる。今後も出来る限り完全取得に向けた努力を続けることが大切。
45	A	A	<p>独法化し、取組内容に柔軟さが見られる。また職員に経営意識、他病院との競争意識、各専門職としての役割意識の向上が認められる。 <u>なお、外部理事の登用に当たっては、透明性の担保された選定方法、内部理事のモチベーション等に配慮する必要がある。</u></p>	<p>独法化し、取組内容に柔軟さが見られる。また職員に経営意識、他病院との競争意識、各専門職としての役割意識の向上が感じられる。 一方で、法人内部に精通していない外部理事を半数以上登用できることとする定款変更の是非、透明性が担保された選定方法、内部理事のモチベーション等について配慮する必要があるのではないか。</p>	-	法人内部に精通していない外部理事を半数以上登用できることとする定款変更の是非、透明性が担保された選定方法、内部理事のモチベーション等について配慮する必要があるのではないか。
					-	独法化し、取組内容に柔軟さが見られる。また職員に経営意識、他病院との競争意識、各専門職としての役割意識の向上が感じられる。
47	A	A	(同右)	<p>前年度の経常利益の計画達成率に応じた配分は、評価できる取組みである。 一方で、医師不足が課題となっている所に対する対応も必要である。</p>	-	経常利益の計画達成率に応じた予算配分も重要だが、医師不足が課題となっている所に対する対応も必要ではないか。
					-	前年度の経常利益の計画達成率に応じた配分は、評価できる取組みである。
49	A	A	意識の高まりが認められる。引き続きの努力を期待する。	意識の高まりが見られる。引き続き、努力を続けて欲しい。	-	意識の高まりが見られる。引き続き、努力を続けて欲しい。
50	A	A	トータルオーダーリングシステムの更新、足柄上病院における電子カルテシステムの導入に向けた準備等、着実に取り組んでいる。	トータルオーダーリングシステムの更新、電子カルテシステムの導入等、着実に取り組んでいる。	-	トータルオーダーリングシステムの更新、電子カルテシステムの導入等、着実に取り組んでいる。
					-	着実に取組みが進んでいる。

小項目	26年度評価					
	自己評価	委員会評価	コメント(案) ※下線部はコメント素案からの修正箇所	コメント(素案) ※各委員からのコメントを集約。第2回委員会で審議。	委員評価	各委員からのコメント
52	A	A	(同右)	<p>病床利用率は80%以上が望ましい。在院日数を短くしているとしても、病院ごとに利用率が異なる点を検証する必要がある。</p> <p>(第2回委員会における主な意見等) ■医師不足等の影響で、足柄上病院における病床利用率が80%を割っているが、評価はAでよい。</p>	B	病床利用率は80%以上が望ましい。在院日数を短くしているとしても、病院ごとに利用率が異なる点を検証する必要がある。
53	A	A	(記載しない)	<p>査定率は全国平均で見ると0.28%程度である。0.3%を超えると経営的に厳しいのではないか。</p> <p>(第2回委員会における主な意見等) ■査定率は目標値ではなく、参考値である。 ■取得すべき設置基準については、適宜取得している。 ■評価はAでよいのではないか。</p>	B	査定率は全国平均で見ると0.28%程度である。0.3%を超えると経営的に厳しいのではないか。
55	A	A	<p>前回議論を反映</p> <p>後発医薬品の普及率について国が高い目標を掲げる中、病院機構としても普及を進めていくことを期待する。</p>	<p>評価としてはAが妥当だが、国が2020年度末までに後発医薬品の普及率を80%とする目標を掲げる中、病院機構の設定目標との乖離があまりにも大きいのではないか。</p> <p>(第2回委員会における主な意見) ■国における80%という具体的目標値を記載することに違和感がある。</p>	-	評価としてはAが妥当だが、国が2020年度末までに後発医薬品の普及率を80%とする目標を掲げる中、病院機構の設定目標との乖離があまりにも大きいのではないか。
56	A	A	(同右)	電力の他、ガス、水道も併せて節減に取り組めば、より高い効果が見込める。節減の評価は使用料で対前年度比較をするなど、より具体的に示すことが望ましい。	-	電力の他、ガス、水道も併せて節減に取り組めば、より高い効果が見込める。節減の評価は使用料で対前年度比較をするなど、より具体的なものとしてほしい。
58	A	A	実際に働く職員に配慮しながら、引き続き適切な職員配置、人事管理に努めて頂きたい。	職員に不満が生まれていないかという懸念はあるが、評価はAが妥当である。	-	職員に不満が生まれていないかという懸念はあるが、評価はAが妥当である。